

あなたの街の「地域活性」を支援する情報誌

2021
Early
Autumn



人が笑む、街も笑む。
[プラス・エム]

2021. 9

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

マーチング委員会は「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に加盟しております。



今号の街／東京都港区

作品タイトル：レインボーブリッジ 作家：上野啓太

「レインボーブリッジ」は1993年に開通し、橋の長さは798m、東日本最長の吊り橋で、上層部を首都高速が走っている。名前は、「虹の橋」という意味で、一般公募により決められた愛称であり、正式名称は「東京港連絡橋」である。人気スポット台場のシンボリックな吊り橋。東京港を代表する施設として映画やドラマ、小説などにもたびたび登場している。



あなたの街で活動する
『浜松町・芝・大門マーチング委員会』の
活動を裏表紙でご紹介します! ▶▶▶

特集：マーチング活動事例紹介① 藤沢マーチング委員会

東海道五十三次の藤沢宿という歴史に、現代社会のニーズSDGsを加えて

特集：マーチング活動事例紹介② にいがたマーチング委員会

伝統ある商店街再興の一助としてマーチング活動を展開

各地の委員会おすすめ! 「地域のお宝自慢」 地域を元気にする「地域メディアと取り組み」

浜松町・芝・大門マーチング委員会

浜松町・芝・大門マーチング委員会は、わたしたちのまち東京都港区を明るく、
元気にしたいと願う多様なメンバーによって人と人、人とまちをつなぐ様々な活動をしています。

この紹介事例にご興味のある方は、お気軽に
一般社団法人マーチング委員会へご相談ください。



神奈川県 藤沢市
藤沢マーチング委員会
代表：川上 彰久

東海道五十三次の藤沢宿という歴史に、 現代社会のニーズSDGsを加えて



さんこうどう社屋

由緒ある街の歴史ある企業として

藤沢マーチング委員会を運営している株式会社さんこうどうは今年で創業136年、会社のある場所は東海道五十三次の藤沢宿として栄えたところだ。藤沢市ではこの歴史とともに古い町並みを大切にしており、さんこうどうも新社屋に建て替えた際に瓦を活かしたノスタルジックなデザインにするなど地域の魅力を守ることを尊んでいる。

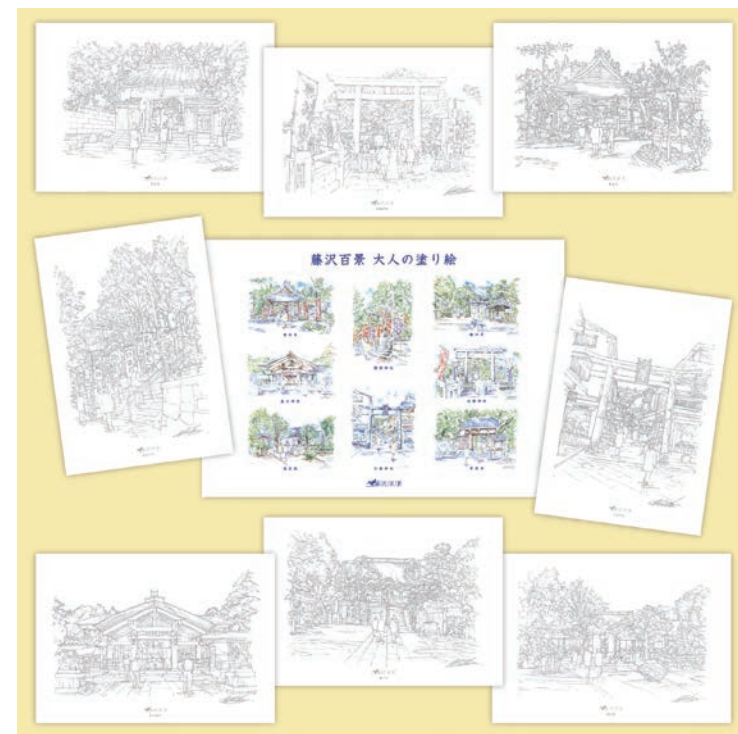
こうした地域性も鑑みて、藤沢マーチ

ングで作成したイラストは、地元の神社仏閣の8点だ。龍口寺、養命寺、皇大神宮、常光寺、白旗神社、江島神社、感応院、諏訪神社。コロナ前はイラスト展やイベントでのイラスト展示を行っていた。ポストカードは、2020年4月に、ふじさわ観光名産品協会から認定され、信頼感を増すことができたという手応えを得ているようだ。また、8点のイラストは大人の塗り絵にして販売し、これもまた好評を得ている。

ユニークなのは、ポストカードの販売

方法として、自社の前に無人販売を設けていること。通りがかった人が気軽に買えて、ほのぼのとした雰囲気が好評で、コロナ禍で非接触型販売としても注目されている。駅構内の土産品ショップでも販売しているが、無人販売は地元との身近な関わりを大事にする藤沢マーチングらしさと言えるかもしれない。

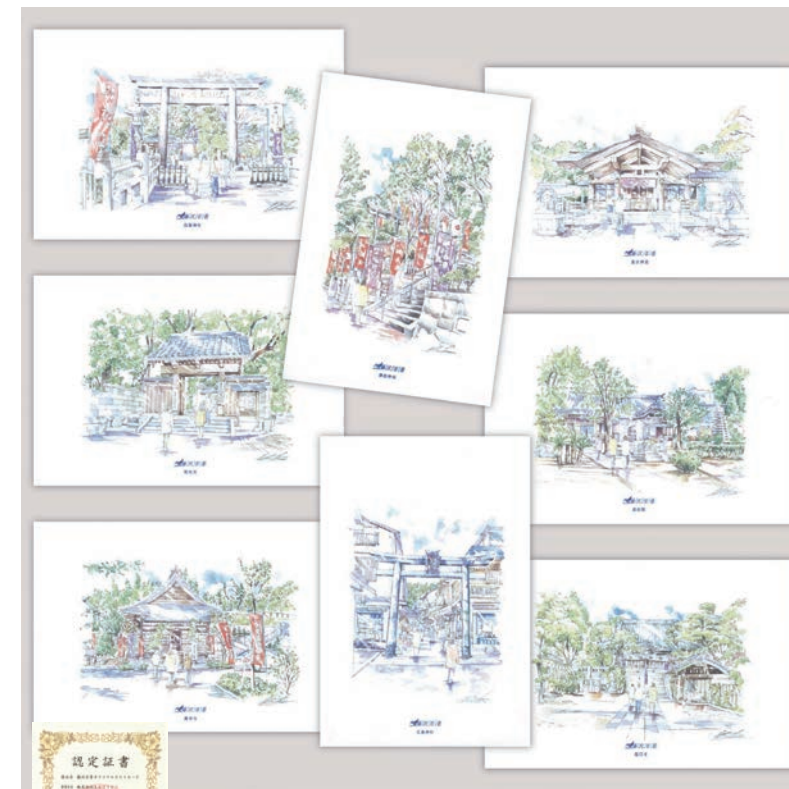
ポストカードや大人の塗り絵が人気の理由として、地域ではなじみの神社やお寺が描かれたイラストに惹かれる方が多いことが挙げられ、その強みを活か



地元の神社仏閣の8点を楽しめる「藤沢百景 大人の塗り絵」



通りがかった人が気軽に買える、ポストカードの無人販売



ふじさわ観光名産品協会から認定されたポストカード



木の名刺



抗菌印刷の紹介ツール

し、神奈川県屈指の神社である寒川神社さんのカレンダーの制作を受注し、上野啓太氏にイラストを描いてもらって完成させた。マーチング活動のイラストを見せて「うちでこういうことができます」と営業が提案してきた成果だ。自社コンテンツが営業の可能性を広げている。一世紀をゆうに超える事業活動により先人の積み重ねてきた信頼があり、マーチング活動によりその信頼をさらに高めていけると実感しているようだ。

マーチング活動の軸をSDGsに

藤沢市は、2020年12月に、国登録有形文化財の桔梗屋（元茶・紙問屋）の建物を購入し、保存の取り組みを行っている。かつての宿場町の時代に想いを馳せるような蔵などがあり、藤沢宿の歴史や文化の継承とともに、地域の活性化に利活用すると言う。市は「旧東海道藤沢

宿街なみ継承地区」を指定しており、藤沢マーチングはその地域の風景をイラストに起こしてマーチング活動につなげていければと考えている。

また、地元でもSDGsに取り組む企業が増えている中、その一環に関わることも心がけているという。

例えば、木の名刺。神奈川県産の木（杉や檜）を使った名刺に印刷した名刺で、地産地消および環境対策を図る。「地元の木を使ってリサイクルを意識しま

せんか」という呼びかけで営業展開を図り、自治体などの方々の名刺に活用されるようになっている。

コロナ禍では、抗菌名刺などにもニーズが高まっている。人々の安心と安全を支えることも企業の使命と考え、積極的に抗菌印刷物の推進にも取り組んでいる。

今後はマーチング活動をもっと本業につなげていきたいというのが目下のテーマだが、地道でも一步一步着実に前進している印象を受けた。



街の歴史を伝え、街を活性化

街の歴史を知ってもらい、地域文化に共感してもらうために街並みイラストを活用することが有効です。SDGsの具体的な取り組みにも繋がります。



新潟県 新潟市
にいがたマーチング委員会
担当：高橋 純子

伝統ある商店街再興の一助として マーチング活動を展開



新潟古町まちなみと情報館



「情報工房DOC新潟古町まちなみと情報館」オープン時の様子

地域笑社でありたい思いとは

新潟県新潟市の中心市街地にある古町商店街は、新潟港から続く堀沿いに発展した歴史ある商店街で、京都祇園や東京新橋と並び称された芸妓文化

の残る街でもある。明暦元年に作られ、360年以上の歴史を有し、最盛期には千軒以上の商店が軒を並べ、かつては代官所などもあったと聞く。しかし、時代の変化とともに郊外型の商業施設が多くできるようになると、人の流れが変わり、古

町商店街は寂れてしまっていた。その後、行政と地元経済界が協力して価値あるこの商店街を再興しようという機運が高まり、撤退したデパートの跡地に新潟市役所の一部が新たに開設されたりしている。その商店街の一角に、2021年

3月22日、にいがたマーチング委員会を運営する第一印刷所が「情報工房DOC新潟古町まちなみと情報館」をオープンした。

もともと、第一印刷所の情報工房DOCは、商業オフィスやコンベンション施設の中に店舗を構えて、地域密着でドキュメントサービス(D)・オフィスサービス(O)・コンベンションサービス(C)を近隣の企業や店舗に提供することを目的として立ち上げた部署である。当初は、印刷物受注や自社製品販売が主な活動だったが、イベント事務局やにいがた百景のコンテンツを利用した地元企業とのコラボレーション企画などを通じ、ものづくりができる強みを活かした地域活性化のまとめ役を期待されるようになっていった。そこで、古町商店街に情報工房DOCを出店し、地域資源を活用して地元の人々を巻き込み、地域を活性化させる役割すなわち「地域笑(商)社」の役割を担う決意をしたという。

しかし、古くからある商店街に新規参入するにあたり、いかに溶け込んで一体感を持てるようにするかに配慮した。コロナ禍で大々的なイベントは難しい。そこにマーチング活動のイラストを活用することになった次第だ。

アフターコロナの新しい発信力を 備える

自己紹介代わりに、DOC店内で「にいがた百景」のイラスト展を行うことにしたのである。こうすれば、気軽に訪れてもらえて、何をしているところが理解してもらいやすい。既存のイラストに加えて新たに古町エリアのイラスト9点を描き起こし、期間はオープンの日からゴールデンウィーク前までの一カ月強。出店の挨拶とイラスト展の案内を兼ねたチラシを持って商店街を回って配布し、「ぜひ、来てくださいね」と声をかけた。その甲斐があってイラスト展は大盛況、特にイラストに自分の店



抗菌印刷のマスクケース

が描かれている方々には大変喜ばれ、にいがたマーチングの活動に興味を持ってもらうとともに交流が芽生えるきっかけになったようだ。

その後、まちなみイラストが多くの方の心を温めた手応えは、徐々に現れてきた。お客様の要望で人気のあったイラストをポストカードとして販売したり、古町芸妓が歩くイラストを使った抗菌印刷マスクケースのサンプルを商店街向けに配布し見積りの引き合いを得たりと、古町商店街におけるにいがたマーチングの存在感が育ってきている。

目下のコロナ禍では、観光案内所の運営とにいがた百景のポストカードなどの土産品の販売が中心となっているが、今後は商店街のアーケードの支柱を広告媒体として活用したり広場でのイベ

ントを仕掛けたりと商店街に喜ばれる企画を提案していきたいと準備を進めているとのこと。また、新潟県内の観光コンテンツをPRするイベントなども企画している。全国的に知名度のある「長岡花火」、世界遺産登録を目指す「佐渡」など、毎回違う地域をテーマにして県内各地を紹介していく構想で、行政、企業、商店街を巻き込んだ大規模なイベントなども実施していく。にいがたマーチング委員会はその名の通り、新潟県全域に展開していく趣旨であるため、古町商店街での経験や知見を生かしてこれからも県内各所に視点を広げ、それぞれの地域の活性化に役立っていききたいと考えている。■



商店街の活性化に活用

街並みイラストやオリジナルグッズを活用し、人を呼び寄せる場づくりを行うことが商店街を活性化することに繋がります。



岐阜県 岐阜市
岐阜ぶらざマーチング委員会

透明感が涼を運ぶ 伝統の技が光る岐阜の手作りうちわ

水うちわ

柔らかな風が心地良い
夏のお供にお気に入りの1本を



住井富次郎商店
〒500-8009 岐阜県岐阜市湊町46 <http://www.ccn.aitai.ne.jp/~gf-utiwa/>
TEL:058-264-4318



4代目・住井一成さんとおしゃべりも楽しい。

岐阜城の城下にあり、格子戸のある古い町並みを今に残す「川原町」。長良川の水運を活かして栄えた風情ある川湊に住井富次郎商店はあります。

明治創業の岐阜団扇の老舗で、昔ながらの手作業で1本ずつ丁寧に仕上げています。中でもこの時期おすすめしたいのが、透けるような質感が美しい水うちわ。美濃で漉いた雁皮紙という薄い和紙

に天然のニス塗ることで、独特の透明感を出しています。制作風景を間近で見ることができるので、作る工程や雰囲気を感じたいつづ選ぶのも粋なひとときではないでしょうか。



愛知県 豊橋市
東三河マーチング委員会

ご当地の恵みを使った SDGsな「えびせんべい」



変わり種えびせん 是蔵(これぞう)

東三河の素材で作った 変わり種 えびせん



変わり種えびせん 是蔵(有限会社 石黒商店)
〒443-0021 愛知県蒲郡市三谷町東四丁目3 <http://www.k-corezo.com>
TEL:0533-75-6070

せんべいと言ったら皆さんはどんな物を思い浮かべますか?日本の米を原料とする煎餅で「米菓煎餅(べいかせんべい)」ともいい、粳米(うるちまい)をつぶしたり搗(つ)いたりして延ばしたものを焼いてつくる米菓ではありませんか?しかし愛知県でせんべいと言えば海老せんべいのこと、ジャガイモ等から作られる澱粉とエビを材料に用いて製造されたせんべいなのです。愛知

県が生産量と国内シェア90%以上を占め、三河地方と知多地方が主な生産地です。このエビせんべいに地元の農産・海産の恵みを加えた「変わり種えびせん」、東三河の水産業者及び生産農家とタッグを組んだSDGsな逸品です。



水産業者・生産農家とタッグを組んだ東三河の自然の恵み達。

鍋島裕俊が選ぶ

キラリ☆輝く 地域メディア

コロナ禍の今、地域メディアが求められています。それは地域コミュニティの再生・醸成に、地域に暮らす老若男女の互いの顔の見える化・魅せる化できるものが求められているからです。前回の「キラリ☆輝く 地域メディア」は、「トキ」に照準を当てた大阪市の狭いエリア「中之島」のフリーペーパー「月刊島民」を紹介しました。「トキ」、時層レイヤーを一枚一枚剥がし、丁寧に作り込みされていたメディアであることを理解していただけたかと思います。



東京都 文京区

file
No. 05

書く!描く!撮る!子どもたちが作る 文京区のローカルマガジン

『MiTaMiYo!!』(みたみよ)無料 企画・制作・発行:クリエイターチームカラフル 後援:文京区
文京区の子ども達とプロと一緒にフリーマガジン『MiTaMiYo!!』。以下のアドレスからお読みいただけます。
<http://mitamiyo.net/>



今回は、子どもたちが自分の住んでいる町を調べて、取材して、記事にしたメディアで、2018年に経済産業省のキッズデザインコンクールで「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門」で評価された東京都文京区の「MiTaMiYo!! みたみよ!! 4号」を紹介します。



浅井さん、コロマガのプロジェクトを開始した時に、一つの仮説を立てたそうです。このマガジン作りに参加した子供たちが成長して生まれ育った町から離れることがあっても、きっと継続して、自分の生まれ育った町に積極的に関わりあっていこうと。そして、その仮説の結果を見るには10年は必要だろうと。

この「MiTaMiYo!!」、文京区の事例ですが、他にも数か所(伊豆市・伊豆の国市・沼津市・北杜市)で展開されているメディアで、その共通したプロジェクトの名称は「COLOMAGA Project」です。

略して「コロマガ」、そのコンセプトは、「地域の活性化と子供の創造性の育成を同時に行いながら、シビックプライドの醸成を図る」ことです。特に子供の自由な視点で、店や企業を取材し、自分の言葉やイラスト・写真で表現したものをデザイナーが整えてあげることで、大人だけでは作れない新しいフリーマガジンに完成しています。

その結果、子供たちは「楽しかった」「前より地元が好きになった」と言ってくれます。また、その記憶は、ずっと残ります。では「MiTaMiYo!!」の記事を紹介しましょう。

※『MiTaMiYo!!』(小石川・春日エリア特集)の取材風景は、以下をご覧ください。
<http://mitamiyo.net/category/news/>

「MiTaMiYo!!」4号、表紙は小学4年生が描いた絵で、「こんにやくえんま」で有名な源覚寺のえんま像です。記事は、嘉納治五郎ゆかりの講道館、初めて割烹着を作った赤堀料理学園、東京ドームシティのアトラクション、小石川の八百屋さん、ブックハンターがいる本屋さん、ペブルスブックス、美味しいイタメシ屋さん、青いナポリ、ケーキのお店アリンコなどを取材し、書かれ描かれています。そして、ページの至る所に子供たちのイラストや写真がキラキラと輝いています。取材を受けたお寺の住職さんや店のオーナーさん、うれしくてタマリマセンね。じっくり見て、読んでいただけて、幸せな気分になってきます。

この「MiTaMiYo!!」などのコロマガプロジェクトを進めているのが、株式会社カラーコードの代表の浅井由剛さん。ご本人の経歴も魅力的ですが、現在は京都芸術大学の准教授をしながら地域デザインを常に考えておられます。

結果、取り組んでから8年目になりますが、仮説は現実的なものに変わりつつあり、最初に参加した子供たちが大学生になって自分の仲間を集めて、プロジェクトの運営を担っているそうです。なんて素晴らしい流れ、継承なんですよ。彼ら大学生が子供たちのサポートをしているなんて。

また、このコロマガの活動は、SDGs、ESDの実績活動としても注目されています。子供たちの創造性を育てて、地域を繋げる活動、全国のマーチング委員会の地域でも、子供たちと一緒に、こんな活動を創り上げてください。■

◎コロナ禍の今こそ、身近な、地元に着目して、地域の子供たちが自分の住んでいる町を調べて、取材して、記事にして、それをプロの大人たちがサポートして出版するプロジェクトで出来上がった作品は、必ず地元でハッピーを呼び込みます。全国各地のマーチング委員会メンバーも、ぜひ、子供たちと一緒に作ってください。



鍋島 裕俊

折込広告文化研究所 代表
元 朝日オリコミ社長室長、メディア戦略アドバイザー

朝日新聞社系の折込広告会社に営業で入り、その後、出版、マーケティングを経て、現在、メディアの方向性を考える戦略セクションに所属。折込広告全国大会の分科会やセッションのプロデュースを担当。折込広告に関する過去の著作は、「商業界」「食品商業」「宣伝会議」「販促会議」「物価資料」など多数。



日本発!地域密着型プラットフォーム

一般社団法人

マーチング委員会とは…

(一社)マーチング委員会は、日本全国のまちを元気に明るくするために、それぞれの地域の人達で結成された全国60の委員会のネットワークです。

先議後利を理念として掲げ、美しい日本のまちなみを描いた各地域のまちなみ百景の製作を通して人と人、人とまちをつなぐハブとなり地域イベントの企画運営、観光振興の支援、地域の物産品の開発～販売支援、教育支援等、その地域に根差した様々な地域活性化活動をしております。

内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォームにも加盟し持続可能な社会づくりも目指しております。

お問い合わせ先／本部・事務局 担当:利根川芳明

〒113-8521 東京都文京区湯島1-7-11

(株)TONEGAWA内

TEL:03-3811-1111 FAX:03-3811-1230



あなたの街の委員会紹介

浜松町・芝・大門マーチング委員会 <http://www.konicaminolta.jp/pr/machi/>



港区の老舗商店会(芝百年会)関係者と打合せ



港区内のお散歩ツアー参加者と記念撮影

東京は港区芝の臨海部に広がる浜松町。かつて東海道の日本橋と品川宿をつなぐ要路にあり、近くには徳川将軍家の菩提寺・増上寺があるなど江戸のおもかげが残るまちです。文明開化の象徴である鉄道が最初に通ったのもこのまち。いま東京港を臨んで超高層マンションや先端企業本社の近未来風景が広がっています。モノレールで空港、そして世界とつながる浜松町はグローバルな発展の可能性を秘めたまちです。

当委員会と港区は、令和3年3月に「まちなみイラストを活用した港区のシティプロモーションの推進に関する協定」を締結して、相互に連携して当委員会が作成する「まちなみイラスト」をさまざまな手段及び媒体において活用し、港区の魅力を広く発信しています。



浜松町・芝・大門マーチング委員会

所在地 東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング26階コニカミノルタジャパン内
代表 日比野 薫
企業HP コニカミノルタジャパン株式会社 <http://bj.konicaminolta.jp>
連絡先 090-2428-4128 (日比野)



表紙(右下)の写真:港区職員及び関係者と「浜松町・芝・大門マーチング委員会」の日比野代表

地域活性情報誌『プラス・エム』Vol.2

2021年9月1日発行 発行/浜松町・芝・大門マーチング委員会・コニカミノルタジャパン株式会社 協力/一般社団法人マーチング委員会

〒113-8521 東京都文京区湯島1-7-11 株式会社TONEGAWA内ビル内

TEL: 03-3811-1111 FAX: 03-3811-1230 メールアドレス: in-japan@machi-ing.jp



一般社団法人

マーチング委員会®

